

書物の神様「魁星」其の壱



『三才図会』に描かれた「魁星図」

江戸期の版本には、見返しなどに朱印が捺印されているものがあります。その中に、手に筆を持ち疾駆する「魁星」の姿を描いたものがあります。

これは、「魁星印」と呼ばれるもので、「本の神様」とも呼ばれます。

この魁星は、中国の官僚試験「科挙」に深い関わりがあり、学問の神様と云われる由縁もそこにあります。

魁星が乗っている謎の生き物「鼈（ごう）」

は、架空の大亀です。

科挙の合格者は、宮殿の前庭に成績順に整列して皇帝に謁見します。そこには、鼈の彫刻があり、トップ合格者「状元（じょうげん）」だけが、一人この鼈の彫刻の頭の部分に立つことができたと言います。そこで、「状元」は、「独占鼈頭（どくせんごうとう）」とも呼ばれます。

魁星がその手に持つのは、筆と墨壺です。

これは、科挙の合格者は、受験者名簿の名前の上に点が打たれることからきています。

魁星が合格者を決定する、司るかのように表現されたこの姿は、まさに学問の神様。

星空を見上げる誰もが良く知っているのが「北極星」と「北斗七星」ではないでしょうか。「魁星」とされる星は、この北斗七星の柄杓の一番先端の星です。中国では、北極星が天空の星々の動きの中心となっていることから、皇帝の星とされています。先頭をきって、帝に従って駆けるこの星は、古来より文運を司る神とされていた、西方白虎七宿の第一宿「奎宿（けいしゅく）」への信仰が変化し、科挙合格の祈りを捧げる神、学問の神様となりました。

学問・文運の神様「魁星」はやがて、官僚の出世や文人の名声、更には出版業や書画商の守護神として崇められていき、本に住みつくようになったわけです。では何故、神様である魁星は、怖い鬼の姿で描かれるのでしょうか。

答えは、「漢字」にあります。（其の弐へ続く）

書物の神様「魁星」其の弐

「魁」という字は、「鬼」と「斗（ます；升）」に分けられます。そう、魁星の姿は、鬼が升を蹴り上げているというイメージから描かれたものなのです。

さて、魁星の特徴として、①鼈と呼ばれる大亀に乗っている。②筆と墨壺を持っている。③鬼の姿で、升を蹴り上げている。という三点を挙げましたが、もう一点特徴があります。

それは、頭上にある三つ星「三星文（さんせいもん）」で、七夕の織女を表しています。また、道教では、三人の最高神「三清（さんせい）」と解釈されています。

さて、中国で信仰されてきた魁星は、どのように日本に伝わって来たのでしょうか。

出版が活発だった明代の末、多くの本とともに魁星も、日本に入ってきました。明の本を和刻する際にも、同じ様に捺されるようになります。

魁星の図柄は初め、明のものがそのまま使われていましたが、日本オリジナルの魁星印が作られるようになり、図柄が持つそれぞれの意味が忘れられたり、文昌星（ぶんしょうせい）など他の神様と混同されたりなど、徐々に変化していったものもあります。

「六星や七星になっている（北斗七星からの連想?）」、「鼈に乗っていない」、「升を蹴らずに持っている」など、意味を知っているとニヤリとする違いがかなり多く見つかります。ただ、魁星の図像そのものは広まっていき、浮世絵などにも描かれるようになりました。

ちなみに、葛飾北斎や渡辺華山が描いた「文昌星図」などの作品は、その特徴から、魁星を描いているものと思われます。



『訓蒙図彙集成』に描かれた「魁星図」。

かなり正解ですが、升を手に持っちゃってます。惜しい！

伝える伝わる本の世界

～「書物の世界」編～



『魁星圖』（富岡鉄斎刻）

文人画家であった富岡鉄斎は、「魁星（かいせい）図」をよく描きました。魁星は、「鼈（ごう）」という大亀に乗って天を先駆ける神様の星ですが、この絵では梅の枝に乗って描かれています。

これは、鉄斎曰く「梅が百花の魁（さきがけ）であるから」ということからなのだから。

この「魁星」は、学問の神様としても知られ、鉄斎は晩年、膨大な蔵書を収めた三階建ての書庫を建て、「魁星閣」と名付けています。

青森県立図書館 参考郷土室

〒030-0184

青森市荒川字藤戸 119-7

電話：017-729-4311 / FAX：017-762-1757

<http://www.plib.pref.aomori.lg.jp>

青森県立図書館 参考郷土室

2014



伝える伝わる本の世界 ～「書物の世界」編～

挿画：『李撰文選』（宝暦12年発行）に捺された「魁星印」

タイトル	著者・編集者	出版社	出版年	ラベルの記号	本の番号
料紙と書 東アジア書道史の世界	島谷弘幸/編	思文閣出版	2014	728.3 リョウジシ	10214568628
西洋活字の歴史 グーテンベルクからウィリアム・モリスへ	スタン・ナイト/著 高宮利行/監修 安形麻理/訳	慶應義塾大学出版会	2014	大型749.41 ナイト*ス	10214560329
初期イングランド印刷史 キャクストンと後継者たち	ロッセ・ヘリンガ/著 徳永聡子/訳 高宮利行/監修	雄松堂書店	2013	022.33 ヘリンガ*ロ	102144464021
そのとき、本が生まれた	アレッサンドロ・マルツォ・マリーニョ/著 清水由貴子/訳	柏書房	2013	023.37 マルツォマ*ア	10214454671
英語本の扉 その歴史と役割	高野彰/著	朗文堂	2012	020.23 タカノ*ア	10214381838
図説本の歴史	樺山紘一/編	河出書房新社	2011	020.2 ス*セツホンノ	10214240368
本 その歴史と未来	デイヴィッド・ピアソン/著 原田範行/訳	ミュージアム図書	2011	020.2 ピ*アソン*テ	10214290752
デジタル書物学事始め グーテンベルク聖書とその周辺	安形麻理/著	勉誠出版	2010	022.33 アカ*タ*マ	10214188944
絵草紙屋江戸の浮世絵ショップ	鈴木俊幸/著	平凡社	2010	023.1 スズ*キ*ト	10214180180
江戸の絵本 画像とテキストの綾なせる世界	鈴木淳/編 浅野秀剛/編	八木書店	2010	913.57 イドノ*エホ	10214109125
漢籍伝来 白楽天の詩歌と日本	静永健/著	勉誠出版	2010	910.23 シズ*ナ*カ*タ	10214061054
草双紙の世界 江戸の出版文化	木村八重子/著	ぺりかん社	2009	913.57 キムラ*キヤ	10213999610
古代製紙の歴史と技術	タード・ハンター/著 久米康生/訳	勉誠出版	2009	585.02 ハンタ*カ*タ	10214019422
図書館史	和田万吉/著	慧文社	2008	010.2 ワダ*カ*マ	10213836476
紙の歴史 文明の礎の二千年	ビエール＝マルク・ドゥ・ピアシ/著 丸尾敏雄/監修 山田美明/訳	創元社	2006	585.02 ビ*アジ*ピ	10213562765
グーテンベルクの時代 印刷術が変えた世界	ジョン・マン/著 田村勝省/訳	原書房	2006	022.33 マン*ジ	10213576520
和本入門 千年生きる書物の世界	橋口候之介/著	平凡社	2005	022.31 ハシガチ*コ	10213444395
ちりめん本のすべて 明治の欧文挿絵本	石沢小枝子/著	三弥井書店	2005	022.39 イザワ*ウサ 2005	10213683032
紙と羊皮紙・写本の社会史	箕輪成男/著	出版ニュース社	2004	023 ミノ*ウシ	10213306214
和紙の源流 東洋手すき紙の多彩な伝統	久米康生/著	岩波書店	2004	585.6 クメ*キヤ	10213321849
ヨーロッパの出版文化史	戸叶勝也/著	朗文堂	2004	023.3 トカノ*カ	10213318582
パピルスが伝えた文明 ギリシア・ローマの本屋たち	箕輪成男/著	出版ニュース社	2002	023.3 ミノ*ウシ	10212777743
文と絵との出会い 装釘と挿絵 企画展	さいたま文学館/編	さいたま文学館	2001	大型022.57 サイタマ*ボン	10215411614
本と活字の歴史事典	印刷史研究会/編	柏書房	2000	022.7 ホトカ*ジ	10212516857
読書の歴史 あるいは読者の歴史	アルベルト・マンゲル/著 原田範行/訳	柏書房	1999	020.2 マンゲ*イル*ア	10212358549
本の歴史	ブリュノ・ブラセル/著 木村恵一/訳	創元社	1998	020.2 ブラセル*ブ	10212286180
印刷製本機械百年史	印刷製本機械百年史実行委員会/編	全日本印刷製本機械工業会	1975	大型022.8 インサツ*エイ	10201601595

※紹介している本は、多くの資料の一部です。お探しの資料が見つからない場合には、職員にお尋ねください。